

# 製パン業で県トップ企業は、 障害者雇用率も5%

—株式会社たけや製パン—

職場  
レポート

EMPLOYMENT  
REPORT



(文) 清原れい子 (写真) 小山博孝



株式会社たけや製パン

〒010-0941 秋田県秋田市川尻町字大川反233-60  
TEL 018-864-3117 FAX 018-865-7242

製パン事業を核に、  
県業界トップに

秋田駅から中心街を抜け、車で海側へ走って約一〇分。工業団地の中に、「株式会社たけや製パン」の本社・工場がある。

一九五一年、初代社長の武藤茂太郎氏は、秋田駅前の一角で小さなパン屋を開店した。「会社案内」の二代目社長武藤真人氏のあいさつには、「……従業員は社長以下三人、機械と名のつくものは中古の電気窯のみ。しかし、しばらくすると、その窯で焼き上げたパンは評判を呼び、飛ぶように売れました。以来、いくつかの困難はあったものの、新工場を建設し、販路を拡大するなど着実に実績を

重ね、昭和三〇年代後期には、秋田の製パン業界をリードするまでになったのである……」と記されている。

最初に評判を呼んだのはアンパンだったとか。消費者のリクエストに応じて種類を増やし、おいしさを追求。業界トップの山崎製パンと業務提携を結び、ヤマザキブランドと、たけやブランドを秋田県内で販売している。菓子パンからコンビニやスーパーのオリジナル製品、学校給食用のパンなどのほか、和洋菓子やお弁当、結婚式の引き出物など、商品の種類は数え切れないほど多い。

障害者の雇用も担当している管理部総務課長の柴田真紀子さんが出迎えてくれる。



柴田真紀子 管理部総務課長

「昭和四三年に新工場を建設して、現在地に移転してきました。順調と言える

かもしれませんが、創業者が一代で築き上げた会社です。山あり谷ありだったという話は聞いています。工場は二四時間、三六五日休みなく稼動していますから、現場はもちろん事務所もシフト勤務です」

早朝出荷に合わせ、パンの種類によって仕込みは午後、夕方、夜とさまざま。桜餅、お盆のお供え物の落雁、クリスマスケーキなど『季節もの』

の製造時期はとくに忙しく、事務方の人たちも総出で手伝うそう。今後は、製パン事業を核に、「総合食品業」への飛躍をめざしている。

一生懸命働き、  
余暇を楽しむ

従業員は四二〇人、うち障害のある人たちは二〇人。知的障害一二人、聴覚障害五人、肢体不自由二人、視覚障害一人、雇用率は五%を超える。その中の五人が仕事を中断して、会議室で私たちを待っていてくれた。営業部製品管理課でパンの仕分けを担当する石橋美喜子さん、工藤正明さん、武田智さん、配送担当の齋藤義人さん、生産部生産管理課でレーズンの準備を担当する高橋俊介さん。みなさん、ちょっと緊張しているよう……。勤続年数が長い順にお話を聞いた。

笑顔いっぱい石橋さんは、まもなく入社九年目を迎える。

「職業センターで訓練を受けていたとき、工場見学に来て、たけやで働きたいと思いました。仕事は慣れてくるとできることが増えてくるけれど、いちばんむずかしいのは人間関係です。楽しいのは、柴田さんとお話するときです。入社したときからたけやの中で一番信頼できる人です。いまは秋田のヒーロー、『超人ネ



出荷・仕分け作業を担当する石橋美喜子さん。入社して9年目になる



イガー』（仮面ライダーの秋田版。すべて秋田のお国言葉で戦うのだから）にはまっています」

齋藤さんは七年。入社後まもなくからトラックを運転して、ハンバーガーやサンドイッチなどの調理パンを作る会社にパンを配送している。「小さいころから、たけやのマー

ガリンとあんこが入っているパンが大好きでした。そのときはどこの会社のパンかはわからなかったけれど、就職が決まったときはうれしかったです。楽しいのは配送をしているときです。車は大好きです」

マイカーは『蛙色』。齋藤さんが運転する箱型の二トントラックは、サイドミラーで後方確認をするので、運転はむずかしい。

工藤さんは六年。補聴器をつけると、はつきりした会話は聞き取れる。給料を貯金して昨春秋、鮮やかな青色の車を買った。

「最初は、仕事はまったくわかりませんでした。が、少しずつ慣れてきました。これからもわからないことを教えてもらいながら、何でもわかるようになります。たいへんなのはクリスマスケーキをつくるとき。朝の10時から夜の九時、10時まで働きます。楽しいのは、会社の人と休みをあわせてドライブしたり、遊びに行くときです」

武田さんは三年。サッカーが好きで、今秋「秋田わか杉国体」と

ともに開催される「全国障害者スポーツ大会」に県代表選手として出場する。

「最初は仕分けがむずかしかったです。いまはたいへんなことはないです。サッカーのポジションはディフェンスで、土曜日に練習しています。全日本の選手に呼ばれたいです。給料はスポーツウエアを買います」

高橋さんは昨年、転職してきた。

「レーズンのかたまりをほぐして、レーズンの実についての不要な部分をとっています。やったことがなかったので、教えてもらってだんだん覚えてきました。休みの日には、買い物をしたりしています」

たけやの製品は全員大好き。食パン、小倉アンパン、ケーキのモンブラン……と次々と製品名があがった。午後一時から四時は一番忙しい時間帯だそう。みなさんの働く現場をのぞいてみた。



## WORKSHOP REPORT

柴田さん（写真右）と楽しくおしゃべりする石橋さん



聴覚障害の工藤正明さんも  
出荷・仕分け部門で活躍している

### 製品仕分け作業など、 大事な「戦力」として

増築・増築で拡大してきたという工場は、初めての者にはわかりにくい。食品工場だから当たり前かもしれないが、床がピカピカで顔が映るようだ。

営業部製品管理課課長の菊地新さんは、知的障害者が多く働く職場の上司である。

「健常者と一緒のレベルで仕事をしてもらいたいので、厳しく指導し、うまくいったときは人の倍ほめるようにしています。みなさん、素直。前向きに働いてくれています。仕事の流れや仕組みはわかっています。言ったことをきちんとやってくれていきますので、戦力として重要です。これからも気持ち前向きに、一〇〇点をめざして働いて欲しいと思います」

その日の製品仕分けは二三五種類。その時点でできあがっていたのは一六三種類。ずらりと並んだカゴの上のランプを見て、石橋さんたちが次々とパンを配っていく。

「ジヨブコーチの協力で、一つ一つ、一歩ずつ指導をしてきました。ランプがついているカゴにパンを入れていきますが、慣れてきて、新しい健常者のパートに仕事を教える人たちもいますよ」と柴田さん。

その近くで、武田さんは伝票と照らし合わせて製品を配分している。「こちらは、商品名とモノが一致できないとできない仕事です」

齋藤さんはトラックに乗ったところをパチリ。

「箱型の二トントラックは、健常者が



パンの配送のためトラックを運転する齋藤義人さん

運転してもけっこうむずかしいものです。齋藤は入社後まもなく、出荷仕分けからトラックの運転に変わりましたが、最初は「怖かった」と言っていました。会社としても怖かったです。冬道はスリップする危険もありますので、慎重に取り組んできました。最初はうつむき加減で、あまり話さなかったのですが、トラックを運転していることが自信につながっているのでしょうね。いまは堂々と仕事をしているので、きつと楽しいのだと思います」

生産部生産管理課で、製品につけるラベルを発行する青山正信さんは勤続二五年。調理パン、ハードロールなどの職場を経て、現在の部署にきて五年になる。勤務は五時から一三時まで。パソコンを操作しながら、ときばきと仕事を進めている。

「洋菓子は製品ごとにラベルが違いま



サッカーが大好きな武田智さん。仕事もがんばっている



すし、日付の管理や製品もよく変わるので、気をつかっています」

柴田さんと一緒に高橋さんの職場に近づくこと、干しぶどうのいい香りがする。

「短期アルバイトで採用したのですが、仕事が大好きだと三〇分前に出社して、仕事への姿勢もいいので、準社員になりました。レーズンの選別は単純作業ですが、責任ある仕事ですし、根気よくやらなければならぬので、見た目以上にたいへんです。うまくいかなかった健常者もいましたが、彼は楽しんで仕事をしてくれています。いまは清掃も担当して、仕事の幅を広げています」

生産管理課には、箱や機械の洗浄作業を担当する障害者もいる。

### ■ 5%の雇用率を維持したい

たけや製パンで障害者雇用を積極的に行うようになったのは、数年前からだという。



真剣にレーズンの選別作業をする高橋俊介さん



「四年ほど前より現在のほうが雇用率が上がっているのは、ここ数年、わが社にきてくださる方が増えてきたのだと思います。ちょうど当てはめられる仕事が出てきたので、健常者と障害者を区別せずに募集して、採用しています。養護学校から直接の人、トライアル雇用からの人、人間関係がうまくいなくて転職し

## WORKSHOP REPORT



製品ごとに付けるラベルの製作と、発行作業にあたる青山正信さんは、勤続25年のベテラン

てきた人もいますが、リストラの対象になり転職してきた人が多いですね。トライアル雇用、ジョブコーチなどの制度を使ってチャレンジして、就職した人たちががんばった成果がいまにつながっているのではないかと思います」

職場への配置は、柴田さんが考えている。「真剣に考えています。トラブルがないわけではないので、向きそうな仕事や人間関係も考えて、面倒見のいい人がいる職場にできるだけ配置するようにしています。製品管理には向かなくても原料



知的障害者の多くが働く職場の上司として指導にあたる菊地新営業部製品管理課長

運搬で働いている人や、製品の仕分けから徐々に違う仕事に就いている人もいます。体力面や作業が合わないなどの理由で辞めた人はいますが、定着はいいと思います。青山君は二五年勤続ですし、定年退職の人もいますから」

会社には正社員と準社員がいて、準社員は時給制だ。

「会社では準社員の比率が増えていますが、昇給がありますので、障害者の間でも能力によって時給が違います。それは、本人たちには励みになってると思いますね。『日中に自分の時間を使いたいの、夜勤がいい』という障害者もいます。ご家庭は協力的ですが、家でしっかりサポートしていただかないと、こちらではみていけない部分が多いので、ご家庭の様子を知るためにも、本人と話すこと

を大事にしたいと思っています」

柴田さんは、「その都度、たいへんなことはありますが……」と言いつつ、笑顔。その明るさが、障害者雇用を推進しているのだろう。

「現場で一緒に働く人たちには『ちょっとでも何かトラブルがあったら教えてください』とお願ひしています。トラブルが大きくならないうちに、現場の声を聞いて、私から本人に話をします。現場の課長もたいへんだとは思いますが、休まれると困るみたいですね。ひたむきに仕事をする、元氣よくあいさつをするなど、ほかの人たちが引っぱられているところもありますね」

これからも、現在の雇用率は維持していきたいという。

「取材の依頼がきたとき、上司に『うちが出てもいいのか』と言われました。工場の改築は現段階ではむずかしいのですが、雇用率は現状より下げたくないの、できる限り推進して、秋田でトップクラスの障害者雇用を誇っていける企業でありたいと思っています」

先に厚生労働省から従業員五〇〇〇人以上の民間企業などの障害者雇用率が発表された。ダントツの一位はユニクロの七・四二％。第二位のマクドナルドが二・九四％。たけや製パンの五％は、りっぱな、誇れる数字です！